

2011年8月期 上期(2010年9月~2011年2月) 決算サマリー

連結業績

(単位：億円)

	2010年8月期	2011年8月期	
	上期実績	上期実績 (前年同期比)	修正通期予想 (前期比)
売上高	4,709	4,573 ( 2.9%)	8,360 (+2.6%)
売上総利益 (売上比)	2,463 52.3%	2,384 52.1% ( 0.2p)	4,325 51.7% (+0.0p)
販管費 (売上比)	1,464 31.1%	1,563 34.2% (+6.8%) (+3.1p)	3,110 37.2% (+7.8%) (+1.8p)
営業利益 (売上比)	998 21.2%	820 17.9% ( 17.8%) ( 3.3p)	1,215 14.5% ( 8.2%) ( 1.7p)
経常利益 (売上比)	965 20.5%	776 17.0% ( 19.5%) ( 3.5p)	1,165 13.9% ( 5.9%) ( 1.3p)
当期純利益 (売上比)	553 11.8%	416 9.1% ( 24.7%) ( 2.6p)	600 7.2% ( 2.6%) ( 0.4p)

**【サマリー】**

**上期は減収減益：** 2011年8月期上期の連結業績は主力の国内ユニクロ事業が不振だったことから、減収減益の結果となりました。国内ユニクロ事業の上期の既存店売上高は、前年の売上が非常に好調だったことの反動や、12月は気温が高く推移したことで冬物販売が不振だったことなどから前年比で9.9%減収となり、減益となりました。海外ユニクロ事業は中国・香港、韓国を中心としたアジア地区で新規出店や既存店売上高増収が続いたことから、営業利益は33.9%増の大幅増益となりました。また、グローバルブランド事業も日米ともに好調なセオリー事業を中心として、営業利益が10.3%増となっております。

**下期は増収増益に転じることを予想：** 下期は、国内ユニクロ事業が前年同期比で増収増益に転じることを見込んでおります。東日本大震災で閉店している店舗の売上の影響、新規出店数が減少した影響などにより、国内ユニクロ事業の売上高予想を直近予想から80億円減額修正いたしました。しかし、既存店売上高については、直近予想の前年同期比プラス3.0%と変更しておりません。3月の既存店売上高がマイナス10.5%と、震災の影響により大きく前年割れとなっておりますが、徐々に売上も回復していることから、4月以降は既存店売上高が増収になることを予想しております。下期の粗利益率は原価アップの影響により同1.8ポイント減を見込んでおりますが、増収と経費削減効果により営業利益は増益になることを見込んでおります。また、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業も下期は引き続き増益を予想しております。

**上期の配当金を10円増額：** 上期の当期純利益が予想比で大きく上ぶれたことから、1株当たり中間配当金を85円から95円へ10円増額いたしました。年間配当金は期末配当金85円をあわせて180円を予想しております。

**国内ユニクロ事業**

2011年8月期上期の連結売上高の74.8%を占める国内ユニクロ事業の売上高は3,421億円、前期同期比6.8%減収、営業利益は703億円、同23.9%減と減収減益になりました。しかし直近予想に比べて、営業利益は40億円強上回ることができました。

上期の既存店売上高は前年比で 9.9%減収でした。減収の要因としては、前年上期の既存店売上増収率が 13.1%増と高かったことの反動や、12月の気温が高く推移したことによる販売不振などから、客数が 5.0%減、客単価が 5.2%減となったことによります。粗利益率は前年同期比 3.4ポイント低下(前年と同じ会計ベースで比較)いたしました。秋物の処分値引きが増加したこと、またヒートテックを増産したことにより、ヒートテックの期間限定販売の回数が増えたためです。上期の販管費比率は前年同期比 1.1ポイント上昇いたしました。しかし、広告費、人件費、物流費を削減、コントロールした結果、経費は期初計画に比べて 84億円削減することが出来ました。

下期の売上高は 2,658億円、前年同期比 7.1%増、営業利益は 386億円、同 9.5%増と増収増益に転じる見込みです。売上高は東日本大震災で閉店している店舗の影響約 30億円、新規出店数の減少による影響約 20億円などにより、直近予想から 80億円減額修正いたしました。既存店売上高については、直近予想の前年同期比プラス 3.0%と変更しておりません。3月の既存店売上高がマイナス 10.5%と、震災の影響により大きく前年割れとなっておりますが、徐々に売上も回復していることから、4月以降は既存店売上高が増収になることを予想しております。下期の粗利益率は原価アップの影響により同 1.8ポイント減を見込んでおりますが、増収と経費削減効果より営業利益は増益に転じることを予想しております。

なお、2011年2月末の店舗数はフランチャイズ店を含み 824店、前年8月期末から 16店舗の純増となっております。2011年8月期末の店舗数は 836店舗、うち、売場面積 500坪規模の大型店は 129店舗に達する予定です。

### 海外ユニクロ事業

上期の海外ユニクロ事業は、売上高 502億円、前年同期比 24.0%増、営業利益 78億円、同 33.9%増と、大幅な増収増益を達成いたしました。営業利益は直近の計画を約 15億円上回る水準となっております。

中国・香港および韓国を中心としたアジア地区では既存店売上高の増収が続き、出店も増えたことから大幅な増収増益となりました。また 2010年10月に1号店をオープンした台湾の売上高は計画を大幅に上回ることが出来ております。シンガポールも順調に業績を伸ばしております。2010年11月にはマレーシアに1号店を出店し順調な売上を達成しております。

米国では、ニューヨーク、ソーホーのグローバル旗艦店の二桁増収が続いております。この秋に出店予定のニューヨーク5番街グローバル旗艦店と、ニューヨーク34丁目店のオープン前家賃負担を除いたベースでは利益は拡大いたしました。フランスでは、計画通りの増収増益を達成しております。英国とロシアは、若干計画を下回る業績となっております。

海外ユニクロ事業の通期の業績予想は売上高 1,000億円、前年比 37.4%増、営業利益 100億円、同 57.1%増と、直近予想より上期で上ぶれした営業利益を増額修正しております。2011年8月末の海外ユニクロ事業の店舗数は 182店舗、前年期末比 46店舗増の予定です。

2011年秋にはニューヨーク5番街にグローバル旗艦店、ニューヨーク34丁目にメガストア、また、アジアではソウル、台北にそれぞれ旗艦店を、バンコクにはメガストアと、世界の主要都市に旗艦店、メガストアを次々と出店していく計画です。

### グローバルブランド事業

上期のグローバルブランド事業の売上高は637億円、前年同期比1.2%増、営業利益は51億円、同10.3%増となりました。セオリー事業は日米ともに好調な売上と増益トレンドが続いており、営業利益は計画比で上ぶれ、前年比でも大幅な増益となっております。コントワー・デ・コトニエ事業の上期の既存店売上高は若干の減収となっており、営業利益は若干の計画未達、前年比でも減益となっております。プリンセス タム・タム事業は卸売事業の縮小により減収となっておりますが、利益はほぼ計画通り、減益となっております。ジューシー事業は、順調に事業を拡大しておりますが、旗艦店オープンのコスト負担などにより上期は減益となっております。

通期のグローバルブランド事業の業績予想は売上高 1,250 億円、前期比 0.2%減、営業利益 85 億円、同 8.3%増を見込んでおり、売上高、営業利益ともに直近予想から変更ございません。

### 2011年8月期の業績予想を修正

通期の連結業績予想は、売上高 8,360 億円、前期比 2.6%増、営業利益 1,215 億円、同 8.2%減、経常利益 1,165 億円、同 5.9%減、当期純利益 600 億円、同 2.6%減を見込んでいます。直近予想から売上高を 100 億円減額、営業利益を 80 億円増額、当期純利益を 90 億円増額修正いたしました。

なお、上期の当期純利益が予想比で大きく上ぶれたことから、1株当り中間配当金を85円から95円へ10円増額いたしました。年間配当金は期末配当金85円をあわせて180円を予想しております

### 2011年8月期 グループ事業別 業績予想

		2010年8月期 通期実績	2011年8月期 予想	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,151	6,080	1.2%
	営業損益 (売上比)	1,277 20.8%	1,090 17.9%	14.6% 2.9p
海外ユニクロ事業	売上高	727	1,000	+ 37.4%
	営業損益 (売上比)	63 8.7%	100 10.0%	+ 57.1% + 1.3p
グローバルブランド事業	売上高	1,252	1,250	0.2%
	営業損益 (売上比)	78 6.3%	85 6.8%	+ 8.3% + 0.5p

IR 情報 <http://www.fastretailing.com/jp/ir/> に決算データや各種リリースなどを開示しております。